

## 6 音楽

## I 本県が目指す音楽科の授業

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などに関連付ける音楽科の学習

## II 教材研究の充実

## 音楽科における教材研究のポイントとその具体

小6：歌唱「情景を思い浮かべて、曲想にふさわしい歌声で歌おう」教材名：「おぼろ月夜」の例

## 子供の視点から

## 素地となる資質・能力の把握

これから学ぼうとすることに対して、関連する題材や、直前の題材で学んできたこと、その定着状況を把握する。

## 子供の興味や関心、学び方等の把握

児童一人一人や学級全体の音楽の学習に対する興味、関心、学び方等の傾向や、配慮すべきことを把握する。

- ・前題材の歌唱教材「ペガサス」では、旋律線の動きを捉え、上行する旋律の動きに合わせて、強弱を工夫して歌うことができた。
- ・歌詞の内容を根拠にして表現を工夫する児童が多いため、音楽を形づくっている要素の働き（本題材では「旋律」）を思考・判断のよりどころとしながら思いや意図をもてるようにする。

## 題材・教材の視点から

## 素材研究・教材化

- ・教師が実際に教材を奏でたり聴いたりして、その教材の特徴をつかみ、児童の心がどのように動くか考える。
- ・育成したい資質・能力と教材の特徴に基づいて設定した題材の目標に照らして、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を決め出す。
- ・どのような学習活動をどのように展開することが、音楽的な見方・考え方を働かせることにつながるのか考える。

- ・「おぼろ月夜」は二部形式でほぼ同じリズムの四つの旋律で構成され、3フレーズ目が他より音高が高く、山型の旋律である。これらの特徴から、思考・判断のよりどころとなる音楽を形づくっている要素を「旋律」と決め出す。
- ・題材の前半では、旋律を歌って覚え、気付いたことを基に旋律の動きや歌詞の内容との関連について理解する。題材の後半では、理解したことを基に思いや意図を膨らませながら曲にふさわしい表現を工夫して、技能を身に付けて歌えるようにする。

## 学習の過程の視点から

## 主体的・対話的で深い学び

- ▶ 音や音楽で心が動く場面を設定し、学習の見通しがもてるようにする。また児童が自分の学びや変容を自覚できるよう、ねらいに即して振り返ることができる場面を設定する。
- ▶ 児童にとって必要感のある対話や対話的な活動を通して、考えを広げたり深めたりできるようにする。また、言葉による対話だけでなく、音や音楽を通じた対話も行い、互いの表現のよさを認め合える場面も設定する。
- ▶ 音楽的な見方・考え方を働かせて、思考、判断し、表現する一連の過程を大切に。児童がどの場面でもどのような知識及び技能を身に付けるか、身に付けた知識及び技能をどの場面でもどのように活用して思考、判断、表現するのか考える。

- ・本題材では、曲を聴いて初感を伝え合った後、歌ったり体を動かしたりして、「旋律」を捉える場面を設ける。その後、歌詞や旋律が変化していることから、「歌詞の内容に合わせた旋律の山の歌い方を考え、歌えばよさそうだ」と、実感を伴った気付きをもとに追究の見通しをもてるようにする。
- ・ICTを活用して、一人で歌ったり聴いたりする時間を確保することや、友と音や音楽を通して対話して考えを広げたり深めたりできる場面を設けるようにする。
- ・「旋律」の働きや歌詞を基に工夫する場面を設け、自己のイメージや感情と関連付けることができるようにする。また、思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付ける必要性を感じられるようにする。

Ⅲ 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善例


【学 年】 小学校 第6 学年

【題材名】 情景を思い浮かべて、曲想にふさわしい歌声で歌おう (全2 時間) 教材名「おぼろ月夜」

【題材の評価規準】 内容 A 表現 (1) 歌唱 ア, イ, ウ (イ)

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p><b>知</b> 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解している。</p> <p><b>技</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な、呼吸及び発音の仕方に気を付けて、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けている。</p>	<p><b>思</b> 旋律を聴き取り、その働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p>	<p><b>態</b> 旋律の動きと歌詞の内容との関連に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

【主な学習活動と評価計画】 (☆…「評定に用いる評価」, ↓…「学習改善につなげる評価」)

時	○学習活動   児童の意識 ( 端末とクワド <sup>®</sup> の活用例)	評価の観点			評価方法	授業改善の視点 取組の具体例
		知	思	態		
1	<p>【ねらい】 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解し、学習の見通しをもつ。</p> <p>○「おぼろ月夜」を歌って旋律を覚え、気付いたことを共有する。</p> <p> 彼の旋律に比べて3 段目が盛り上がっているね。</p> <p>音の高さに合わせて手を動かすと、3 段目の旋律の山が分かるよ。</p> <p> 歌詞は春風が吹く空の様子だね。</p> <p>3 段目に旋律の山があり、そこで春風が吹く情景が歌われているから、春が来たという感じがするんだね。</p> <p> 旋律の山や歌詞を生かして、春が来た感じを表したいな。</p>	↓	↓	↓	<p>気付きをもとに学習の見通しをもつ</p> <p>楽曲を聴いて歌ったり、歌詞を読んだりし、気付いたことを基に、音楽を形づくっている要素の働きや音楽の特徴を捉え、友と共有・共感する場を設け、追究のよりどころとします。</p>  <p>おぼろ月夜の3 段目の楽譜</p> <p>☆<b>知</b> 児童のつぶやき、観察、ワークシートの記述等から評価する。</p>	
	<p>題材の学習問題：旋律の山と歌詞の内容の関わりを生かして歌い方を工夫して歌おう</p>					
2	<p>【ねらい】 曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもち、自然で無理のない、響きのある歌い方で歌う技能を身に付けて歌唱で表現する。</p> <p>○旋律の山や歌詞の内容を基にして、3 段目の歌い方を工夫する。</p> <p> 春風の「か」で音が急に上がるけれど、音をなめらかにつなげたり高い音をきれいに歌ったりして、さわやかな春が来た様子を表したい。</p> <p>○呼吸や発音の仕方に気を付けて、工夫したことを歌声で表現する。</p> <p>急に高くなるところをなめらかに歌えるように、息の流れを意識しよう。</p> <p> 録音して歌声を確かめる。</p> <p> 「春風そよ吹く」がなめらかできれいに歌えてきた。「空を見れば」は落ち着いた感じで歌いたいな。</p> <p>○歌声を聴き合い、よさを共有する。</p> <p>旋律の動きを生かした歌い方を工夫したら春らしい景色が浮かんできた。これからも旋律の動きをいかして歌いたい。</p>	↓	↓	↓	<p>思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素の働きを根拠にして考える</p> <p>児童が考えた工夫に対して、なぜそう考えたのか理由を問いかけ、思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素の働きを根拠に思いや意図をもてるように支援します。</p> <p>☆<b>思</b> 「旋律」の働きを根拠としながら、思いや意図をもっているか、児童のつぶやき、観察、ワークシート等から評価する。</p> <p>☆<b>技</b> 思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身に付けているか、歌声の聴取、ワークシートから評価する。</p> <p>☆<b>態</b> 観察・ワークシートの記述から総合的に評価する。</p> <p>学んだことのよさを実感する</p> <p>個々の表現のよさを共有し、学んだことを次の学びに生かせるようにします。</p>	
		↓	↓	↓		